

歴史息づく
花のまち江戸川区

はな・まち・えがお

“東京の春の花暦は、鹿骨の草花から始まる”——。

江戸川区は、かつてそう表現される
花のまちとして知られていました。

最盛期には東京 23 区第 1 位[※]の草花生産額を誇り、
夏の風物詩「入谷の朝顔市」に並ぶ朝顔は、今も
7 割がここ江戸川区から出荷されています。

年末年始を彩るシクラメンやポインセチア、葉牡丹、
そして春の七草も区内で伝統的に生産されている鉢物です。

長きにわたる花の歴史を持ち、生産者だけではなく
今では多くの区民が草花を愛し、ボランティアを中心に
公園や通りが美しく手入れされている私たちの故郷。

花が結び、花が育む、江戸川区の笑顔の交流をどうぞご覧ください。

※昭和 50 年頃。「江戸川区農業基本構想」より

花の名所へ行ってみよう!



四季を彩る江戸川区の主な花のスポット

1	サクラ	1 葛西水門
2	サクラ	2 小岩川千本柳
3	しじり梅	3 行船公園
4	つつじ	4 南緑つつじ公園
5	つつじ・さつき	5 行船公園
6	ひんご	6 千草花見光栄公園
7	花みずき	7 花みずきロード
8	あんず	8 流石町あんずの里
9	ポピー	9 なぎさ公園
10	チューリップ	10 なぎさ公園
11	花菖蒲	11 小岩菖蒲園
12	ひまわり	12 葛西フレンド公園
13	さるすべろ	13 行船公園
14	ひら	14 フラワーガーデン
15	ラベンダー	15 なぎさ公園
16	桜	16 葛西寺
17	コスモス	17 葛西水門コート
18	ポインセチア	18 小岩フラワーロード
19	桜	19 巻江の森公園
20	スイセン	20 新島川取水公園

桜見どころマップ

～15,000本の桜がおもてなし～



6 小松川千本桜



23 藤崎水門



11 新川千本桜



26 藤田堀親水緑道



17 新左近川親水公園



33 都立葛西臨海公園



- | | | |
|-------------|---------------|------------------|
| 1 親水さくらかいどろ | 12 宇喜田さくら公園周辺 | 23 藤崎水門 |
| 2 小岩公園 | 13 行船公園 | 24 藤崎水門 |
| 3 中央森林公園 | 14 清原町・臨海町緑道 | 25 下藤田さくら公園 |
| 4 小松川堀川親水公園 | 15 新長島川親水公園 | 26 藤田堀親水緑道 |
| 5 半井さくら公園 | 16 なきさく川公園 | 27 二之江江川さくら公園 |
| 6 小松川千本桜 | 17 新左近川親水公園 | 28 二之江江川さくら公園 |
| 7 田中川 | 18 新河口公園 | 29 古川親水さくら公園 |
| 8 都立大島小松川公園 | 19 都立藤崎公園 | 30 東葛西サクラエーション公園 |
| 9 新堀緑地周辺 | 20 新堀小学校校庭辺 | 31 新葛西サクラエーション公園 |
| 10 新堀スポーツ公園 | 21 新葛さくら公園 | 32 都立葛西臨海公園 |
| 11 新川千本桜 | 22 香江の森公園 | |

この花な～に？



春

1

ヒント1
日本の代表的な花です

答え＝サクラ

【樹木】
日本原産 / バナナ科

ヒント2
万葉の時代より人気が高く、江戸時代には
活葉に改良が進み、今では園花のように
愛されています。区内には
15,000本も植わっています。



春

2

ヒント1
江戸川区の花です

答え＝ツツジ

【樹木】
日本原産 / ツツジ科

ヒント2
江戸川区の花として昭和53（1978）年に
公募により制定されました。
ちなみに荒川区や新堀区など、東京23区中
10区がこの花を区の花と制定しています。



春

3

ヒント1
別名「ヤブ・アキハ」

答え＝ヤグルマソウ

【草本】
ヨーロッパ原産 / キク科

ヒント2
切の花で販売されることが多い花ですが、
江戸川区で古くから生産されていたのは
鉢物。葉が低く、花も小さい。
花の色が多様な美しい品種でした。



春

4

ヒント1
世界中の人々もこの花です

答え＝バラ

【樹木】
中国西部原産 /バラ科

ヒント2
毎年5月中旬に、この花の品種展示会が
江戸川区総合文化センター前広場で
行われています。昭和32（1957）年から
続く歴史あるイベントです。



春

5

ヒント1
アフリカの代表的な花です

答え＝サイネリア

【樹木＝ツキザクラ】
アフリカ・カリフォルニア原産 / キク科

ヒント2
春を代表する花で日本には明治初期に渡来し、
最盛期でも早くから鉢花栽培が始められました。
本来のサイネリアは品種が
多いことから、今の呼び名に変わりました。

この花な～に？



夏

6

ヒント1
夏の風物詩

答え＝アサガオ

【樹木】
東南アジア、ヒマラヤ山脈原産
/ ヒルガオ科

ヒント2
有名な入道のお祭りのお祭りの主役がこの花！
真田に並ぶお祭りのお祭りの鉢が江戸川区産です。
お祭り関係者にはなじんだ、夏に黄色の
花が咲く「お十郎」も人気です。



夏

7

ヒント1
水辺に咲きます

答え＝ハナショウブ

【花菖蒲】
日本原産 / アヤメ科

ヒント2
いましがアヤメかキンギョバタ？
花弁の土台に縞目状の模様があるのがアヤメ、
白い模様があるのがキンギョバタです。
この花は黄色い模様が特徴です。



秋

8

ヒント1
秋風にやさしく揺れます

答え＝コスモス

【樹木＝アキザクラ】
メキシコ原産 / キク科

ヒント2
存ぎ31番にある区内一の高さ13.5mを誇る
展望の丘はこの花の名所です。
秋になると丘の斜面は
白やピンクの花で埋め尽くされます。



冬

9

ヒント1
クリスマスのお慶び

答え＝ポインセチア

【観葉植物＝ショウジョウコボク】
メキシコ原産 / トウダイグサ科

ヒント2
クリスマスをお祝する植物ですが、
ホントは寒さが苦手です。暖かい気温と
日光が大好き！赤い部分は花ではなく
葉の一種。おぼろげです。



冬

10

ヒント1
春をいれるとりませ

答え＝ハボタン

【草花】
西ヨーロッパ原産 / アナカ科

ヒント2
歌人・石田波郷が「江東流石記」に
冬の散歩の情景として紹介した草花です。
葉を牡丹に見立て、その名が
つけられました。

4,400人を超える ボランティア

江戸川区では大勢が公徳ボランティアとして、花壇の手入れや落ち葉の清掃を行い、豊かな自然環境を区民の方で創出しています。公徳ボランティアの参加総数は 222 団体 133 団体 4,415 人 (2015 年 4 月 1 日現在)。心豊かな人々の活動を一部ご紹介しましょう。



園芸工場・サディッシュフ

古くは園芸工場、今はサディッシュフ



毎週木曜日の
開催

江戸川区の老人大学「江戸川花づくり学科」の先生たち、卒業生でサークル化した「緑豊かな公園環境局」を、卒業後も高齢者定年定年課している。園芸のアイデアやアイデアのアイデアに定年定年課を結ぶ。卒業生、卒業生さんと一緒に定年定年課を結ぶ。月 1 回の定年定年課を結ぶ。卒業生さんと一緒に定年定年課を結ぶ。卒業生さんと一緒に定年定年課を結ぶ。

メンバーはコアラ

1. 園芸工場・サディッシュフ
2. 園芸工場・サディッシュフ
3. 園芸工場・サディッシュフ
4. 園芸工場・サディッシュフ
5. 園芸工場・サディッシュフ
6. 園芸工場・サディッシュフ
7. 園芸工場・サディッシュフ
8. 園芸工場・サディッシュフ



江戸川グリーン・グリーン

古くは園芸工場、今はサディッシュフ

毎週木曜日の
開催



平成 26 (2014) 年に開始した江戸川老人大学の一課。江戸川花づくり学科卒業生 10 人が卒業生定年定年課を結ぶ。卒業生さんと一緒に定年定年課を結ぶ。卒業生さんと一緒に定年定年課を結ぶ。卒業生さんと一緒に定年定年課を結ぶ。

代表 池田利秀さん

1946 年 4 月 25 日生まれ。園芸工場、園芸工場。江戸川老人大学卒業生定年定年課を結ぶ。卒業生さんと一緒に定年定年課を結ぶ。卒業生さんと一緒に定年定年課を結ぶ。



菊づくりボランティア

古くは園芸工場、今はサディッシュフ



10 年以上続く
全年代の菊づくり

平成 20 年度の昭和 18 (1943) 年 4 月 25 日生まれ「園芸一人一鉢の菊づくり」を創始して行っている江戸川小中学校は、「菊作り」を始めた。卒業生さんと一緒に定年定年課を結ぶ。卒業生さんと一緒に定年定年課を結ぶ。卒業生さんと一緒に定年定年課を結ぶ。



代表 池田利秀さん
1946 年 4 月 25 日生まれ。園芸工場、園芸工場。江戸川老人大学卒業生定年定年課を結ぶ。卒業生さんと一緒に定年定年課を結ぶ。卒業生さんと一緒に定年定年課を結ぶ。

<平成 26 (2014) 年
代表「地産地消学校見学活動」
校長に代わって園芸工場・サディッシュフ



なぎさアロマビュー

主な活動場所：なぎさ公園

12月種日ハーブを
育てています



平成 19 (2007)年に活動開始。現在15人前後の高齢者と共に毎週なごさ公園に集まり、ハーブや一年草のハーブを栽培・手入れをしています。園を彩るハーブの栽培は約12品種。お花やハーブティの試飲、ポプリの制作なども、毎週開催し、近所民衆に発信しています。また夏のラベンダー祭やランティア祭は毎年6月に開催。
 <平成27(2015)年 第4期 園芸まつり2015 美加つく公園園芸部門賞>
 <平成29(2017)年度 あどりの健康増進活動推進賞受賞>



特徴 園芸員一人

1人1鉢の園芸活動は、高齢者にとって、楽しみながら活動できる活動です。また、園芸活動を通じて、高齢者の健康増進や、社会参加の促進、地域交流の促進、認知症予防の効果が期待されています。また、園芸活動を通じて、高齢者の健康増進や、社会参加の促進、地域交流の促進、認知症予防の効果が期待されています。



koIwa 花路倶楽部

主な活動場所：中野フラワーロード

300名の
フラワーロード



1971(昭和46)年から約 300名におよびながら、中野フラワーロード、昭和 47(1972)年に設置された約 200 坪の民有地で、毎年花壇コンクールが開催され、一年を通じて花壇が市民生活の足元を彩っています。この花壇の手入れを行っているのが koIwa 花路倶楽部です。メンバーは約 20 名、毎月活動日には、季節の花の植え替えや雑草取り、花壇掃除を行い、花壇を美しく保つていきます。
 <平成29(2017)年度 あどりの健康増進活動推進賞受賞>



特徴 駅近の民有地

1971(昭和46)年から約 300名におよびながら、中野フラワーロード、昭和 47(1972)年に設置された約 200 坪の民有地で、毎年花壇コンクールが開催され、一年を通じて花壇が市民生活の足元を彩っています。この花壇の手入れを行っているのが koIwa 花路倶楽部です。メンバーは約 20 名、毎月活動日には、季節の花の植え替えや雑草取り、花壇掃除を行い、花壇を美しく保つていきます。



江戸川ローズボランティアサークル

主な活動場所：アコウロード・メイン

毎月毎月
バラを育てる



きっかけは定年退職の「バラの手入れがランティア栽培講座」。その講師と先輩達が、講師の紹介で「アコウロード」駅内のアコウロードで約 150 坪のバラを定植時に購入出来るようになったのがサークルの始まりです。四季咲きのバラを毎年4月に植えるためには、1年を通しての管理が必要で、20 名の会員は毎日活動し、600 株もの園内のバラの手入れを行います。種別豊富なバラを育てています。
 <平成27(2015)年 園芸まつり2015 美加つく公園園芸部門賞>

特徴 無償園地

1971(昭和46)年から約 300名におよびながら、中野フラワーロード、昭和 47(1972)年に設置された約 200 坪の民有地で、毎年花壇コンクールが開催され、一年を通じて花壇が市民生活の足元を彩っています。この花壇の手入れを行っているのが koIwa 花路倶楽部です。メンバーは約 20 名、毎月活動日には、季節の花の植え替えや雑草取り、花壇掃除を行い、花壇を美しく保つていきます。



花を愛する守り人

花を咲かせる達人たち

サツキ名人



上手に育てるコツは…愛情！
子どもと同じですよ。

草月園の頂点を極めた 薄原眞樹さん

「半世紀以上、サツキづくりを続けています。サツキの面白さは、1本の木から複数の色や柄の花

が出る<花芸>でね。枝ぶりや花の色艶は技術次第で上手にできるけど、どこにどんな花がつかは運みたいなもの。見事な<花芸>が出たときの感動はこの上ないよ。丹精込めて咲かせたサツキを江戸川区役所に飾ってもらおうようになってからは、毎年新聞にも記事が載り、区長も区民も喜んでくれるからね。今はそれをやりがいに育てています。上手に育てるコツは…愛情かな。手をかけて大事にしてやるとキレイな花を咲かせてくれます。子どもと同じですよね」。



サツキ名人の作品は毎年春には江戸川区役所庁舎前に飾られます



昭和 58 (1983) 年、日本草月園協会主催の花季展覧会(株・さつきプロジェクト)で最高賞の草月園賞(賞状)を受賞した1等賞(すいせん)

苗半作。菊づくりを通して
やさしい心を育てています。

造景大花壇の作者 松原昇次さん

「ふと訪れた善養寺で菊に心が和み、菊を作り始めました。品評会で表彰されると、それ

に飽き足らず創作造景大花壇を影向菊花大会で発表するようになりました。同時期に上小岩小学校の創立 50 周年を記念して行った子どもたちとの菊づくりは、30 年以上続いています。菊づくりに「苗半作」という言葉があります。これは美しい花を咲かせるには健全な苗木がなにより大事という意味です。感受性豊かな小学生は、人間形成におけるまさに苗木のような時期。小学生全員一人一鉢の菊づくりはそんな子どもたちの思いやりの心を育む活動だと思っています」。



菊名人



善養寺の影向菊花大会に毎年参られた、直径 180cmにもなる造景大花壇。松原昇次さんが 1 年がかりで完成させたこの造景大花壇は、昭和 54 (1979) 年から平成 23 (2011) 年まで、33 年にわたり影向菊花大会の目玉として公開され、全国各地から来場者を集めました。





真利子園に隣接する公園には、四季折々の華花が咲き誇っています

**風向きを読みながら、少数多品目で
高品質な花卉生産をめざしています。**

フラワーガーデンマリコ<真利子園園> 真利子典広さん

「年の初めのサクラソウから始まり、冬のポインセチア、シクラメンと、年間通じて50種類約15万鉢を生産しています。最近の花づくりは情報戦で、次に何が売れるか、常にアンテナを張り、風向きを読まないといけないと販売として成り立たなくなり、地球温暖化や周りの環境の変化もあり、我々には柔軟な対応力が求められています。これからも花のまち鹿骨の伝統を途絶えさせることがないよう、精いっぱいやっていきたいです」。



花を育てる プロフェッショナル

江戸時代の菊栽培から始まり、大正時代にはすでに花卉園芸が盛んだった鹿骨一帯は、全国に知られる花のまちとして発展してきました。その優れた栽培技術の伝統は、現在も江戸川花卉園芸組合を中心に脈々と受け継がれています。

**新鮮で、丈夫で長持ちなのが
江戸川区産の花の特長です。**

江戸川花卉園芸組合 組合長 半谷善之さん



「江戸川区の花卉園芸は、東京という一大消費地に向け、新鮮な花をすぐに届けられるのが一番の利点です。豊富な鉢物はまた、気候の変わらない関東圏で育てられることで丈夫で長持ちします。先輩たちも我々もさまざまな創意工夫によって江戸川区の花卉を発展させてきました。朝顔は4月の早い時期に種をまき、ハウスに黒房を入れ、遮光カーテンで夜が長くなったと勘違いさせ花をつける短日処理を行います。だから入谷の朝顔市では、祭りに合わせ一足早く朝顔が大輪を咲かせるんですよ。」



史料に由来から承せる行灯つくり



獅子部という名の朝顔です

★江戸川区産草花の3大特長★

新鮮!

丈夫で
長持ち!

高品質!



小粒あきがお市

花卉園芸の歩み

江戸川区の花卉園芸は、江戸時代から現在まで、市民の生活と深く結びついて発展してきました。その歩みは、江戸川区の歴史を映し出すように、静かに歩んでまいりました。

江戸川区産の天草草の種

江戸川区産の天草草の種は、江戸時代から現在まで、市民の生活と深く結びついて発展してきました。その歩みは、江戸川区の歴史を映し出すように、静かに歩んでまいりました。

幻のお宝発見!



平成2年
2000

小岩おさがお市開催

秋祭りの名所である江戸川区で、おさがお市が催行されました。

昭和51年
1976

江戸川花卉園芸聯合結成

「東京の東」としては江戸川の花を愛する方々の熱意が、昭和51年に江戸川花卉園芸聯合が結成されました。

昭和54年
1979

花の盛典始まる

昭和54年の秋、第1回花の盛典が始まりました。これは、江戸川区の花卉園芸の発展を促すきっかけとなりました。



フクローガーデンツクリ
〈高野子園芸〉高野子あさひさん

園芸にこそ花育を!花を育て、花を愛する楽しさを知ってほしい。
「我が国は花の国である。3人の若者が、言葉の通り、実際に花畑に行き、花畑の美しさや花の香りを知ることが、園芸の楽しさや花育の大切さを学ぶことにつながります。それが明治40(1907)年頃から、大正時代にはすでに園芸に80戸もの花卉園芸があったといわれます。園芸が盛んになり、昭和10(1935)年ではわずか230戸の村ながら、おさがお市では園芸を重要視する時代を迎えています。自然が豊かな園芸にこそ、花を通じて豊かな心を育て、花育がもっと盛んになってほしいと思っています。園芸が盛んになれば、おさがお市から花育が広がっていくことも期待しています。フクローガーデンや、高野子園芸が積極的に取り組むおさがお市に支えられてきたのが、その歩みです。その歩みは静かに、しかし確実に進んでいます。」



昭和30年
1954

東京オリンピックの花!

東京オリンピックでは、江戸川の花が展示されました。これは、江戸川区の花の魅力を世界にアピールする貴重な機会となりました。

昭和43年
1968

第1回都府県花大会

第1回都府県花大会は、江戸川区の花の魅力を全国にアピールする貴重な機会となりました。これは、江戸川区の花の魅力を全国にアピールする貴重な機会となりました。



昭和32年
1957

江戸川区特産バラ品評展示会

江戸川区産のバラを賞賛する目的で、昭和32年に江戸川区特産バラ品評展示会が開催されました。これは、江戸川区産のバラの魅力をアピールする貴重な機会となりました。



戦前

農耕中心に活気づく園芸

戦前までは、園芸は農耕の余暇活動として行われていました。これは、江戸川区の花の魅力をアピールする貴重な機会となりました。



昭和23年
1948

復活を遂げた朝顔の鉢

大正時代以来、朝顔の鉢は江戸川区の花の魅力をアピールする貴重な機会となりました。これは、江戸川区の花の魅力をアピールする貴重な機会となりました。

大正時代

高野園芸組合発足

大正時代、高野園芸組合が発足しました。これは、江戸川区の花の魅力をアピールする貴重な機会となりました。



戦後

校歌にも登場!
フレーン栽培

戦後、フレーン栽培が校歌にも登場しました。これは、江戸川区の花の魅力をアピールする貴重な機会となりました。

江戸時代

江戸時代、江戸川区の花の魅力をアピールする貴重な機会となりました。これは、江戸川区の花の魅力をアピールする貴重な機会となりました。



大正12年
1927

関東大震災を機に転身

関東大震災を機に、江戸川区の花の魅力をアピールする貴重な機会となりました。これは、江戸川区の花の魅力をアピールする貴重な機会となりました。

